



わたしのおすすめ

雑木林で里山の営みを



木こりの会 会長
森次平也さん(中北下)

市内中心部から西に車で約20分。ナラ、カシ、アカマツ、クリ、ヤマザクラなどの雑木林の中に私たちの活動の場があります。かつては木々が密生していましたが、間伐や下草刈りなどを行った結果、1haほどですが、林に心地良い空間が生まれました。日差しが林床に差し込み、訪れる人をやさしく包んでくれます。

この会はメンバー約30人のボランティアグループ。3年ほど前から活動



を始め、それぞれ得意分野を發揮しながら林の管理、炭焼き、シイタケ栽培など里山の営みを堪能しています。

いま、この活動への参加者を募集しています。私たちと楽しみを分かちあいながら、マツタケも採れるような元気な里山を取り戻しませんか？一昔前の恵み豊かな里山を知る人たちは、きっと郷愁を感じられますよ。

参加者募集!!

草刈機や搬出機などの道具の提供もお持ちしています。

活動日 月4回程度
ところ 里山ふれあいの森(久米川南)※市有林
対象 どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
参加費 無料(できれば道具をお持ちください)
申込・問い合わせ先 木こりの会事務局(久米支所産業経済課内) ☎32-7014



た。今年5月にはテレビ朝日の長寿音楽番組「題名のない音楽会」に出演の機会を得て、現田茂夫さん指揮の東京交響楽団と共演しました。

仕事をしながらの活動ですが、ご苦労はありますか？

課題は、練習時間の確保です。自宅のマンションでは、ピアノが弾けるのは夜10時まで。毎日、1時間半から2時間の練習時間を確保するため、帰宅後はすぐにピアノへ。夕食はいつも夜10時からです。また、市役所では広報の仕事をしていますが、平日できないことをカバーするために休日出勤もあります。

今後の活動は？

アマチュアだからこそできることをやりたいです。たとえば曲目に解説を交えたりして、1人でも多くの人に音楽と共感できるものを提供できたらと思います。音楽のすそ野を広げるような活動がしたいですね。

11月19日、久米体育館で行われる「名もないみんなの音楽会」にも出演されますが、津山のみなさんにメッセージを。私にとって故郷津山は特別な場所です。コンサートでは、

名もないみんなの音楽会

と き…11月19日(土)午後6時30分～(内容＝谷口博章さんピアノコンサート)、11月20日(日)午後1時～(内容＝地域の人によるコーラス・楽器演奏など)
ところ…久米体育館(中北下)
入場料…500円(19日のみ)
問い合わせ先…教育委員会久米分室 ☎57-2936

みなさんと対話できるような楽しいひと時を過ごしたいと思っています。ぜひ聴きに來てください。

静かな口調から伝わってきたピアノへの情熱。コンクールで審査員だけでなく聴衆からも高い支持を得るのは、谷口さんの演奏に技術を越えたい心に響くものがあるからなのでしょう。今後ますますの活躍を楽しみにしています。



▲パリでのコンクール受賞後、審査員でピアニストのマルク・ラフォレ氏と

山だいき！



わたしも
ひとつと

資源回収の
場所にごみを
捨てないで！

スーパーマーケットなどで
トレイや缶・びんの回収が行
われていますが、その場所に
入れてきた袋やごみをそのま
ま捨てて帰る人を見かけます。
ごみを捨てる所ではないと思
うのですが…。(二宮・女性)

そのとおりです。現在、
市では缶・びん、ペットボ
トルを回収しています。こ
こは、あくまでリサイクル

資源回収の場所

缶・びん

市役所東入り口、ウエストランド、
ニシナ小原店、ジャスコ津山店、
リユースプラザ津山「くるくる」

ペットボトル

市内すべてのスーパーマーケット、
リユースプラザ津山「くるくる」
※トレイ回収は小売店が独自に実施

する物を回収する場所です。
それ以外のものは置いて帰
らず、入れてきた袋は繰り
返し使いましょう。
みんなが気持ちよくリサ
イクルするためにも回収場
所を汚さないことは大切な
ことです。ルールを守れば
みんなが助かります。
環境事業課 22・8255



未来をひっぱる 津山人

音楽のすそ野を広げたい！

谷口博章さん(ピアニスト)



今回は、西宮市職員でアマ
チュアピアニストとしても活
躍中の谷口博章さん(堺町出
身)です。

今年1月にパリ国際グラランド
アマチュアピアノコンクール
3位入賞。審査員から「真の
ピアニスト」と絶賛されるな
ど高い評価を得られたそうで
すね。

コンクール直前に津山でリ
サイクルを開きました。同じ
曲目で自信をつけて臨んだ結
果の受賞。津山のみなさんか
らいただいた励ましが支えに
なり、感謝しています。
ピアノとの出会いは？

始めたのは5歳のころです。

ピアノに関して自我に目
覚めたのは、中学3年の
ときワイセンベルグとい
うピアニストのショパン
「ノクターン第13番」の演
奏をテープで聴いたとき
です。「この曲を自分の
ものになりたい」と強く感
じました。

その後、津山高校、関西
学院大学法学部に進学し、西
宮市役所に勤務。この間、ピ
アノとどのように関わってこ
られましたか？

進学時、プロのピアニスト
になる道は迷った末に選びま
せんでした。でもピアノが私
の人生になくてはならない存
在であることに変わりありま
せん。その後もピアノを続け
社会人になってからも国内外
のコンクールに参加し、高い
評価をいただくようになりま
した。

こうした状況で話を交えた
わかりやすいコンサートなど
も開くようになり、一方で「パ
リ・エコール・ノルマル音楽
院」の卒業資格も取得しまし